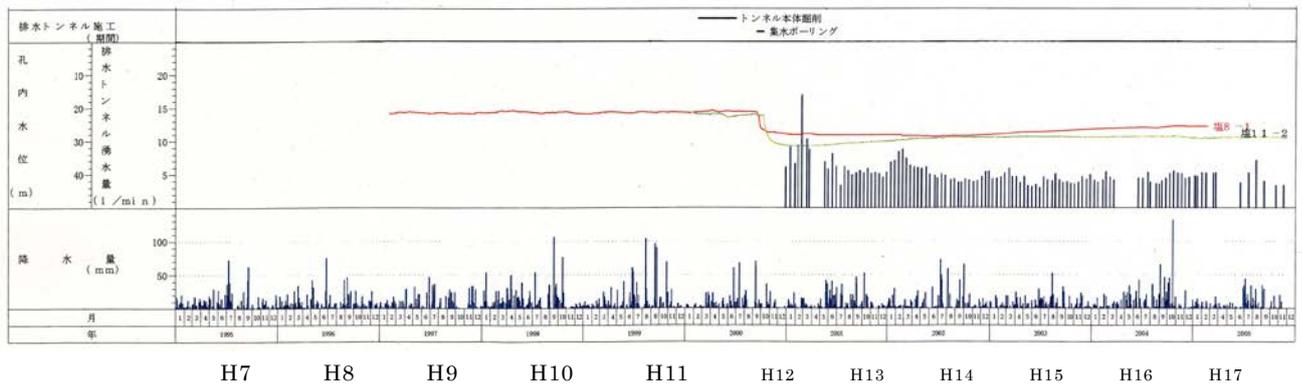


(1) 塩本区域 (B-8 ブロック)

- 1) ブロックの位置、規模
 - ・塩本集落から寒沢右岸に広がる斜面に位置し、幅 250m、長さ 360m 程度
- 2) ブロック種別 危険
- 3) 実施した対策工
 - ・排水トンネル工 (380m)
 - ・排水路工 (4 路線 141m)
- 4) 効果確認の調査・観測
 - ・地下水位：2 箇所、H12 年～H17 年観測
 - ・孔内傾斜計：1 箇所、H12 年～H15 年観測
- 5) 観測結果
 - ・地下水位：集水ボーリング施工 (H12 年) 直後低下した水位は低下したまま安定に推移。トンネル湧水量も搾孔後 2 年を経た H14 年から変動幅が減少。H16 年 10 月豪雨 (19 日 10mm 20 日 153mm 合計 163mm 気象庁信州新町局過去最高降水) にも水位の上昇はみられなかった。
 - ・孔内傾斜計：トンネル掘削後に 35～43.5m に変動が発生したが 6 ヶ月ほどで安定化し、以降変動はない。



- 6) 効果判定
 - 事業実施中の総合判定：C (観測継続)
 - 事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(2) 塩本追加区域 (I-10-1 ブロック)

1) ブロックの位置、規模

- ・塩本追加区域の最高部にあり、幅 127m、長さ 289m 程度

2) ブロック種別 要注意

3) 実施した対策工

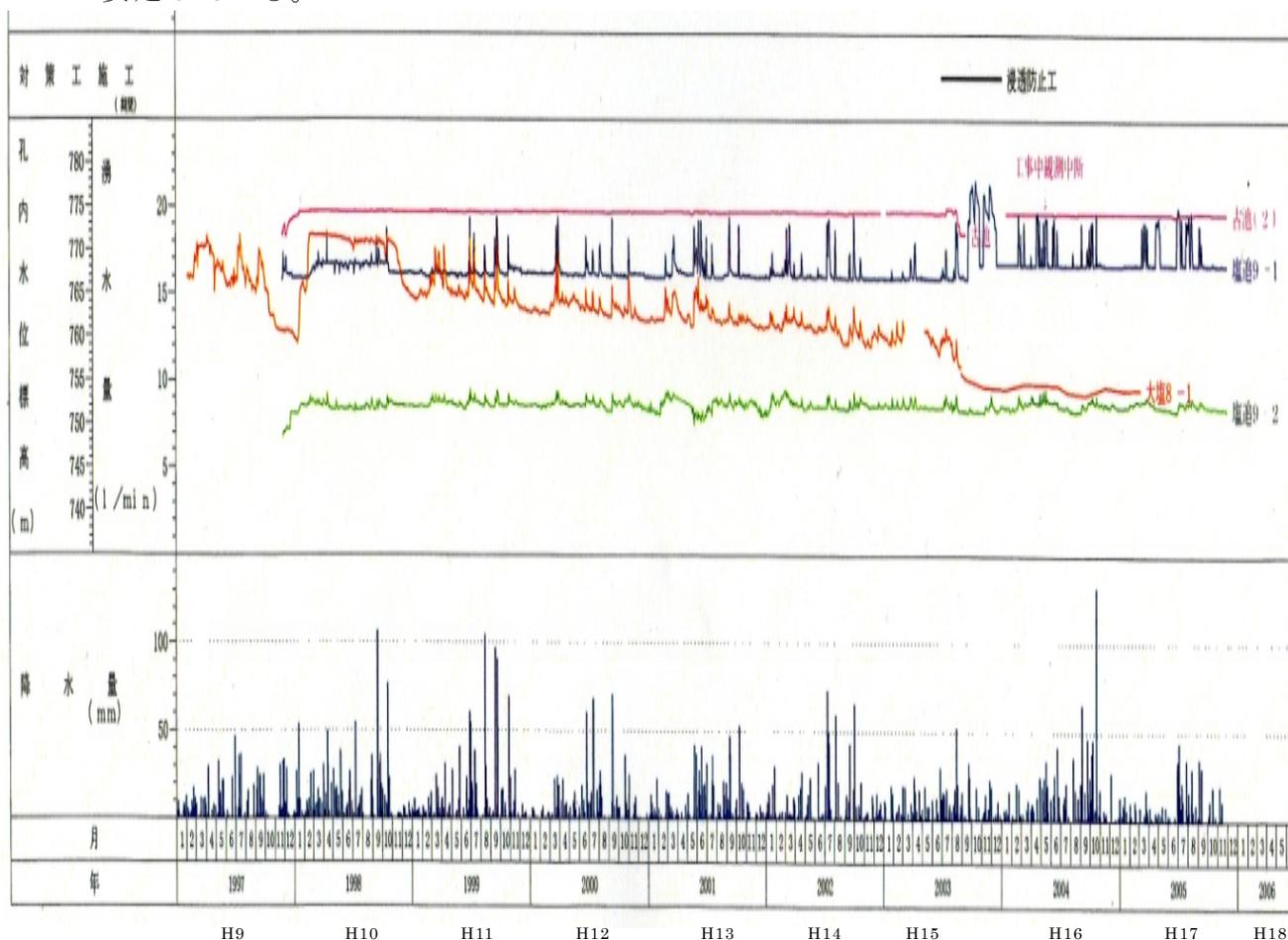
- ・排水路工 (7 路線 277m)
- ・浸透防止工 (合成ゴムシート 2, 229 m²)
- ・床止工 (2 箇所)

4) 効果確認の調査・観測

- ・地下水位：4 箇所、H9 年～H17 年観測
- ・パイプひずみ計：1 箇所、H9 年～H17 年観測

5) 観測結果

- ・地下水位：浸透防止工施工 (H15 年) 後に地下水位の変動 (孔により水位上昇、下降) があつたが、その後変化なし。H16 年 10 月豪雨 (163mm 過去最高降水) 時にも水位上昇は見られない。
- ・ひずみ量：浸透防止工施工 (H15 年) 後の半年間程度変動があつたがその後は安定している。



6) 効果判定

事業実施中の総合判定：C (観測継続)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(3) 平清水地域 (B-4 ブロック)

1) ブロックの位置、規模

- ・平清水集落の上部に位置し、幅 60m、長さ 125m 程度

2) ブロック種別 危険

3) 実施した対策工

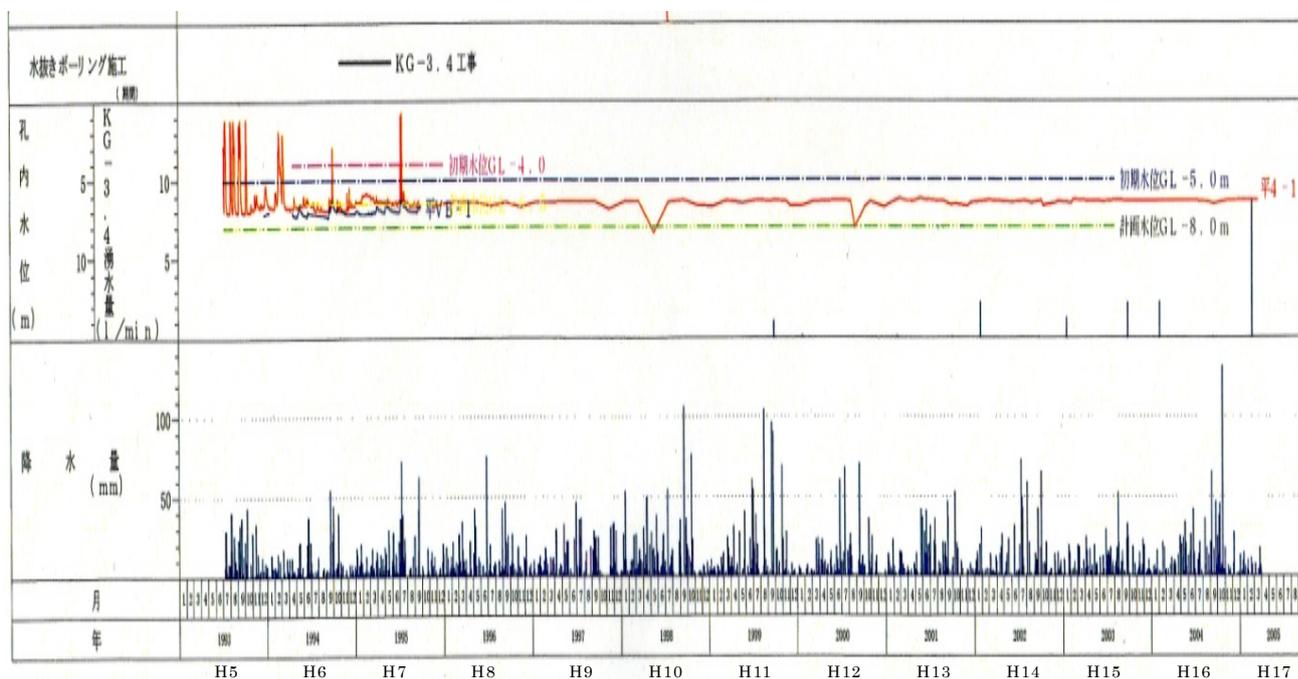
- ・水抜きボーリング工 (2 箇所)
- ・排水路工 (1 路線 84m)
- ・杭工 (22 本)

4) 効果確認の調査・観測

- ・地下水位：1 箇所、H5 年～H17 年観測
- ・パイプひずみ計：1 箇所、H5 年～H14 年観測
- ・孔内傾斜計：1 箇所、H15 年～H17 年観測

5) 観測結果

- ・地下水位：水抜きボーリング施工後、水位急上昇が抑制 (最高水位の低下) され、H16 年 10 月豪雨でも水位の急上昇無し。
- ・ひずみ量：対策工の施行前は変動が見られたが、施工後 (H7) は、変動が見られなくなった。
- ・孔内傾斜計：地すべりによる変動は認められない。



6) 効果判定

事業実施中の総合判定：B (条件付観測終了)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(4) 中原区域 (A-1 ブロック)

1) ブロックの位置、規模

- ・ 中原集落内に位置し、幅 120m、長さ 120m 程度

2) ブロック種別 危険

3) 実施した対策工

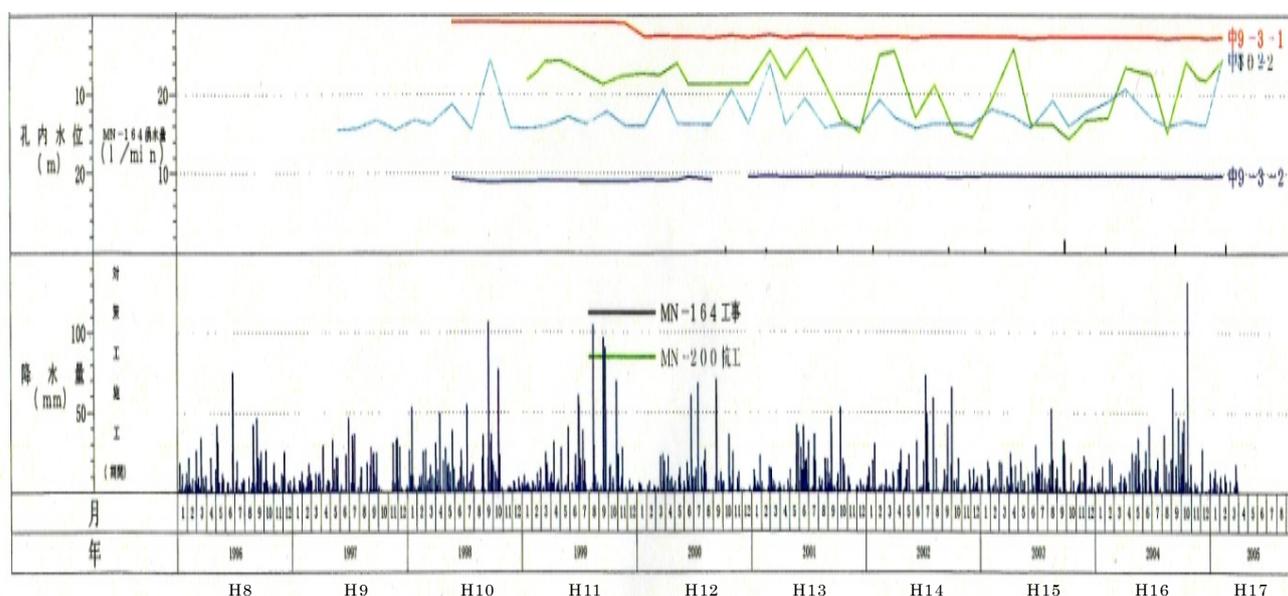
- ・ 水抜きボーリング工 (5 箇所)
- ・ 承排水路工 (7 路線 351m)
- ・ 杭工 (46 本)
- ・ かご工 (9m)

4) 効果確認の調査・観測

- ・ 地下水位：4 箇所、H9 年～H17 年観測
- ・ パイプひずみ計：2 箇所、H9 年～H16 年観測
- ・ 孔内傾斜計：1 箇所、H15 年～H17 年観測

5) 観測結果

- ・ 地下水位：対策工施工後、水位変動が大きくなるが、地下水は低下傾向である。
- ・ ひずみ量：対策工の施工(H11)後地すべりによる変動は認められない。
- ・ 孔内傾斜計：対策工の施工後に設置した孔内傾斜計では変動は認められない。



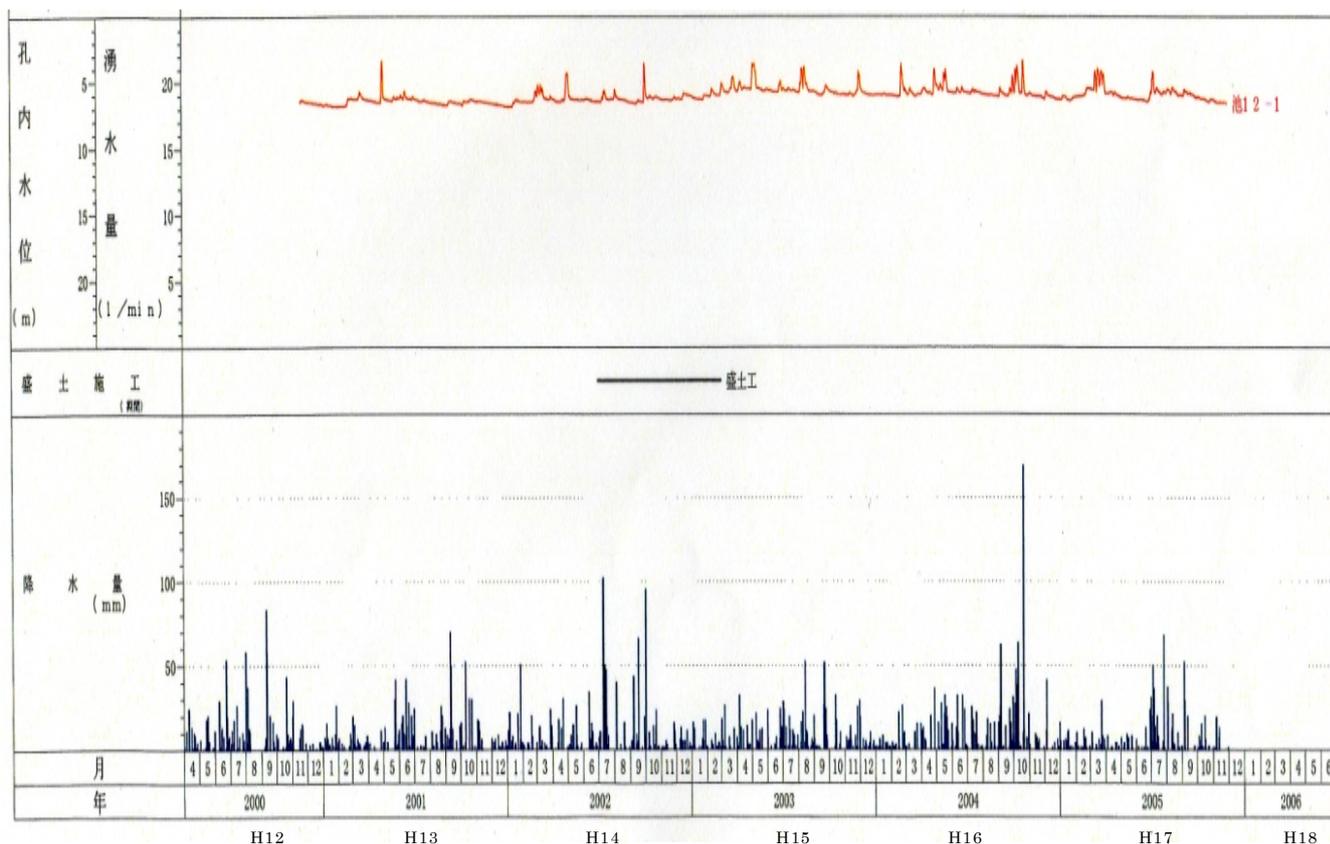
6) 効果判定

事業実施中の総合判定：B (条件付観測終了)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(5) 池田区域 (C-5 ブロック)

- 1) ブロックの位置、規模
 - ・区域東縁の南沢中流部左岸に位置し、規模は幅 100m、長さ 33m 程度
- 2) ブロック種別 要注意
- 3) 実施した対策工
 - ・承排水路工 (5 路線 929m)
 - ・盛土工 (36,100 m³)
- 4) 効果確認の調査・観測
 - ・地下水位：1 箇所、H12 年～H17 年観測
 - ・パイプひずみ計：1 箇所、H12 年～H15 年観測
- 5) 観測結果
 - ・地下水位：盛土工施工 (H14 年) 後、最低水位が上昇するが、その後安定している。
 - ・ひずみ量：対策工施工前は変動がみられたが、施工後は地すべりによる変動は認められない。



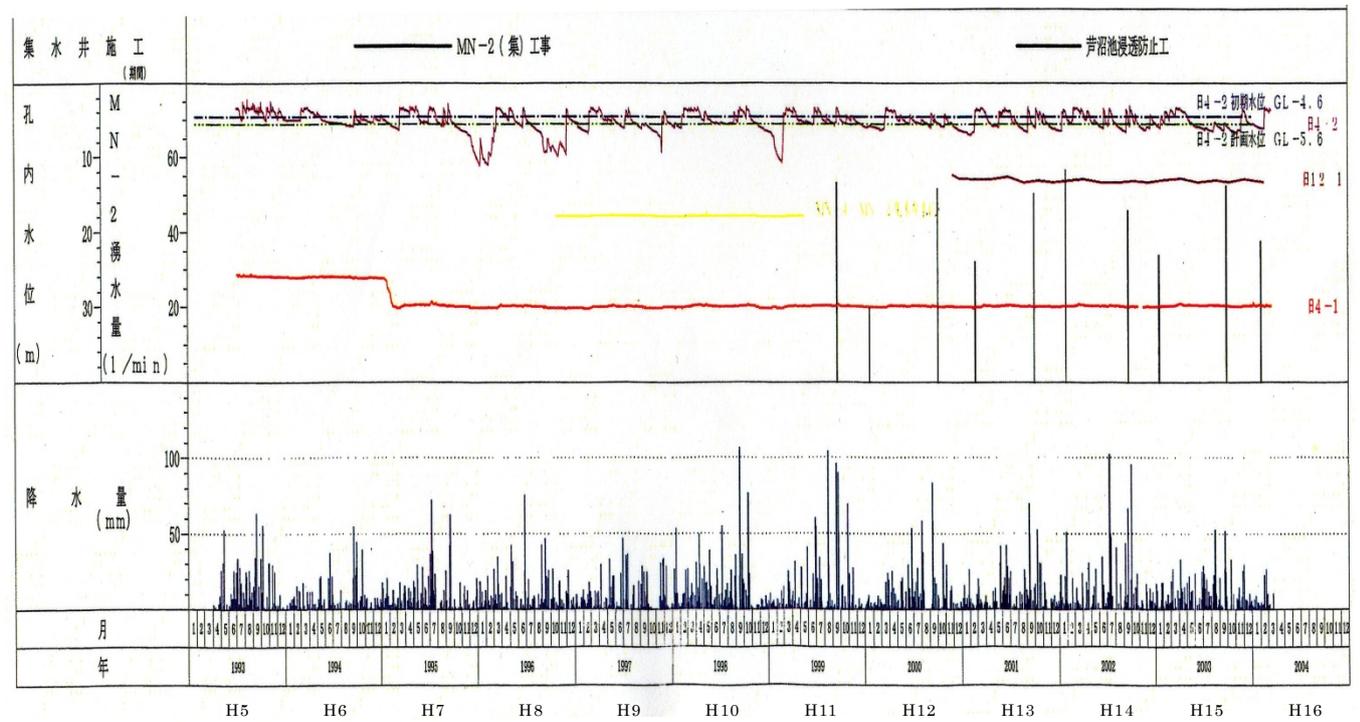
6) 効果判定

事業実施中の総合判定：B (条件付観測終了)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(6) 日方区域 (B-7-1 ブロック)

- 1) ブロックの位置、規模
 - ・南沢と堂ノ沢の間に広がる水田緩傾斜地に位置し、幅 90m、長さ 75m 程度
- 2) ブロック種別 要注意
- 3) 実施対策工
 - ・集水井工 (1 箇所)
- 4) 効果確認の調査・観測
 - ・地下水位：3 箇所、H5 年～H16 年観測
 - ・パイプひずみ計：2 箇所、H5 年～H16 年観測
- 5) 観測結果：
 - ・地下水位：集水井施工 (H7 年) 後、地下水位が低下 (特に最低水位) する。
 - ・ひずみ量：1 箇所のパイプひずみ計にセンサー劣化によるとみられる計測値の変動はあったが地すべりによる変動はみられなかった。



6) 効果判定

事業実施中の総合判定：B (条件付観測終了)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

(7) 倉田和区域 (A-6 ブロック)

1) ブロックの位置、規模

- ・大月集落の上部に位置し、ブロック規模は幅 70m、長さ 80m 程度

2) ブロック種別 危険

3) 実施した対策工

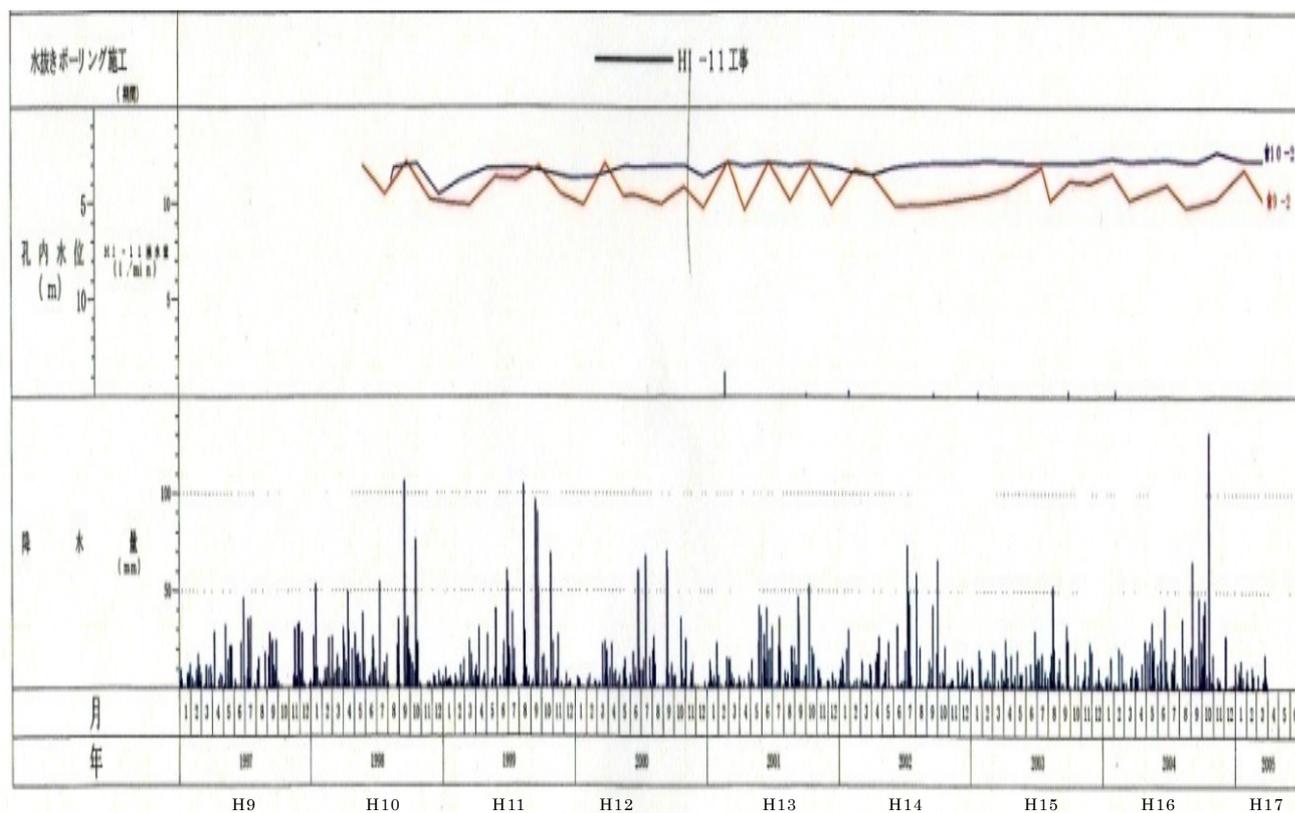
- ・水抜きボーリング工 (1 箇所)
- ・承水路工 (1 路線 40m)
- ・杭工 (23 本)

4) 効果確認の調査・観測

- ・地下水位：2 箇所、H10 年～H17 年観測
- ・パイプひずみ計：2 箇所、H10 年～H15 年観測
- ・孔内傾斜計：1 箇所、H15 年～H17 年観測

5) 観測結果

- ・地下水位：対策工施工前後での地下水位変動の変化はない。
- ・ひずみ量：対策工施工前は変動が見られたが、施工後は地すべりによる変動は認められない。
- ・孔内傾斜計：対策工施工に設置した孔内傾斜計には、変動は認められない。



6) 効果判定

事業実施中の総合判定：B (条件付観測終了)

事業完了時の総合判定 (カルテ)：A (変状 A、効果 A)

II 評価項目

1 社会経済情勢の変化

(1) 社会経済情勢の変化

1) 人口・世帯数の推移

旧大岡村・信州新町における平成22年の総人口は6,046人であり、平成2年の8,896人と比較すると32%減少しているが、長野県においては平成12年まで3%増加し、以降平成22年まで3%減に転じている。

また、平成22年の総世帯数は2,438世帯で、平成2年の2,853世帯と比較すると15%減少しているが、長野県においては20%増加している。

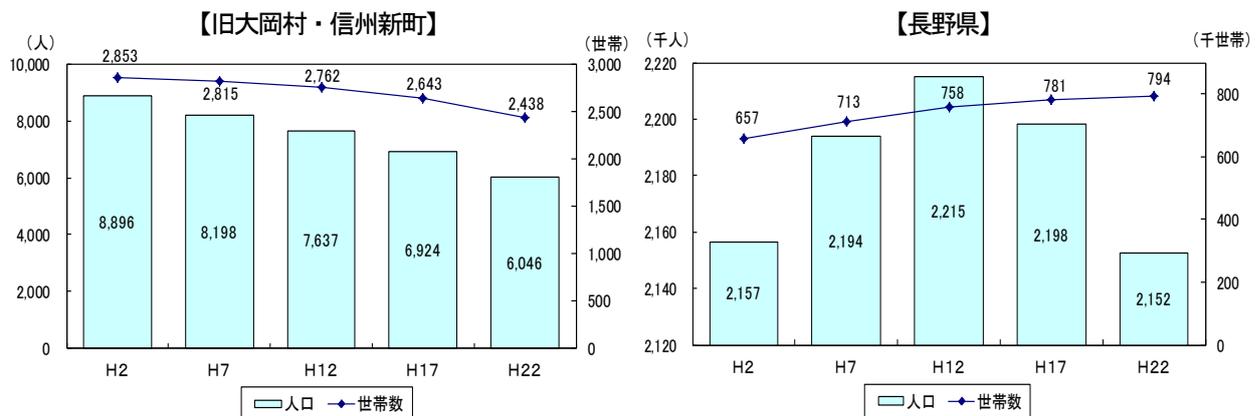


図 II-1-1 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査(総務省統計局)

2) 産業別就業人口の動向

旧大岡村・信州新町における平成22年の産業別就業人口の総数は3,083人であり、平成2年の5,256人と比較すると41%減少しており、長野県においても7%減少している。また、平成22年の第一次産業の占める割合は19%で、長野県の9%を大きく上回っている。

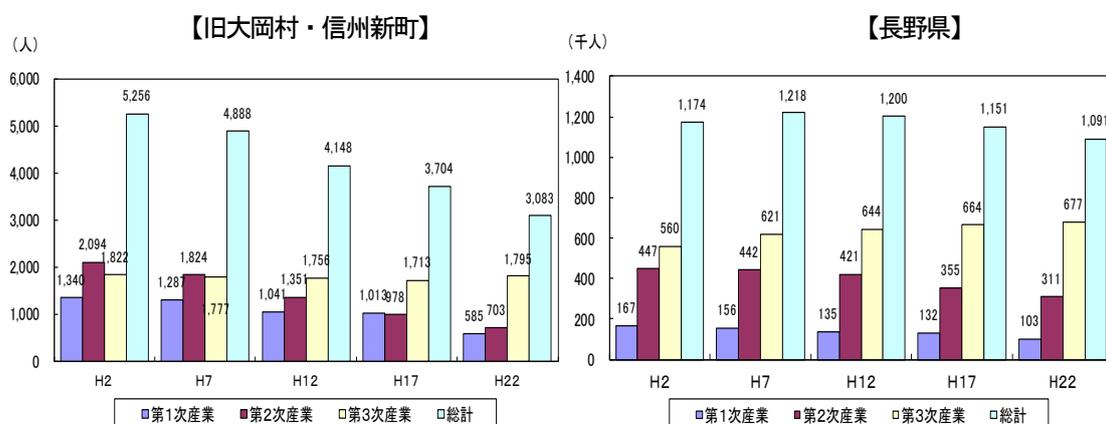


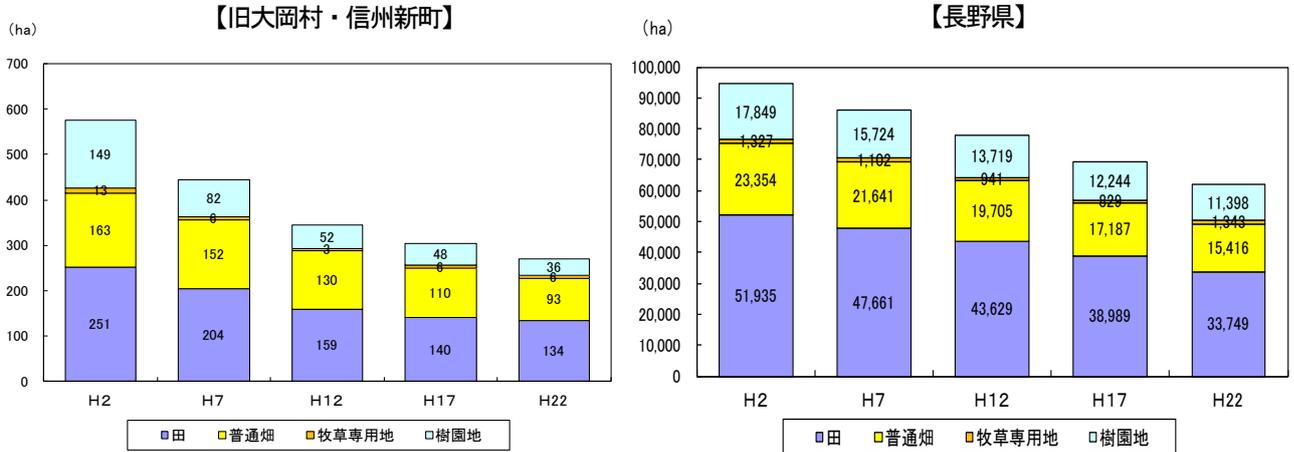
図 II-1-2 産業別就業人口割合の推移

出典：国勢調査(総務省統計局)

(2) 地域農業の動向

1) 土地利用の状況

旧大岡村・信州新町における平成22年の耕地面積は269haであり、平成2年の576haと比較すると53%減少しており、長野県においても34%減少している。

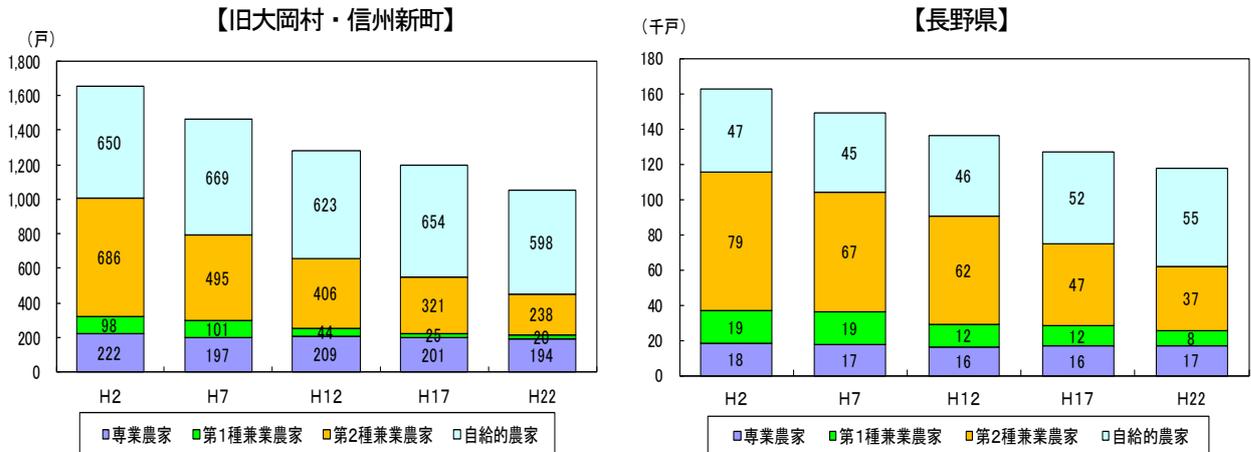


図Ⅱ-1-3 耕地面積の推移

出典：長野農林水産統計年報(関東農政局長野農政事務所)

2) 農家数及び専兼業別農家数

旧大岡村・信州新町における平成22年の総農家数は1,050戸であり、平成2年の1,656戸と比較すると37%減少しており、長野県においても28%減少している。また、専兼業別農家数の構成比を比較すると旧大岡村・信州新町では専業農家が13%から18%に、自給的農家が39%から57%にそれぞれ増加し、第二種兼業農家が41%から23%に減少するなど二極化の傾向にあり、長野県においても同様の傾向にある。



図Ⅱ-1-4 専兼業別農家数の推移

出典：農業センサス長野県統計書(農林水産省大臣官房統計部)

3) 年齢別農業就業人口

旧大岡村・信州新町における平成22年の農業就業人口は688人であり、平成2年の1,492人と比較すると54%減少しており、長野県においても49%減少している。

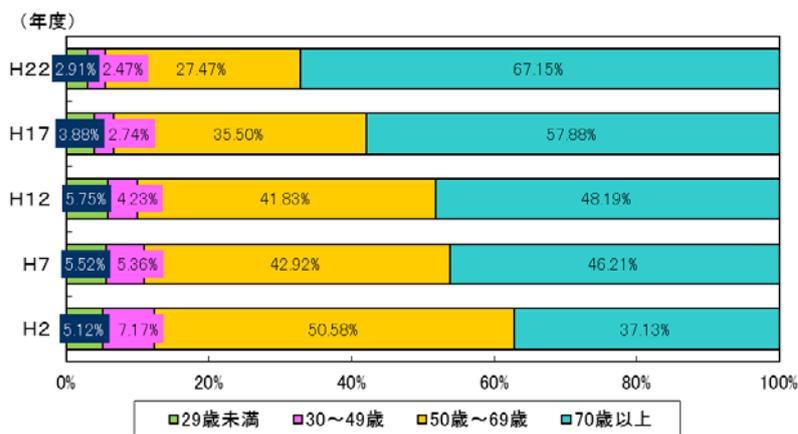
	H2	H7	H12	H17	H22
旧大岡村・信州新町	1,492	1,154	992	876	688
長野県	195,546	170,676	155,620	130,823	100,244

表Ⅱ-1-5 年齢別農業就業人口の推移（人）

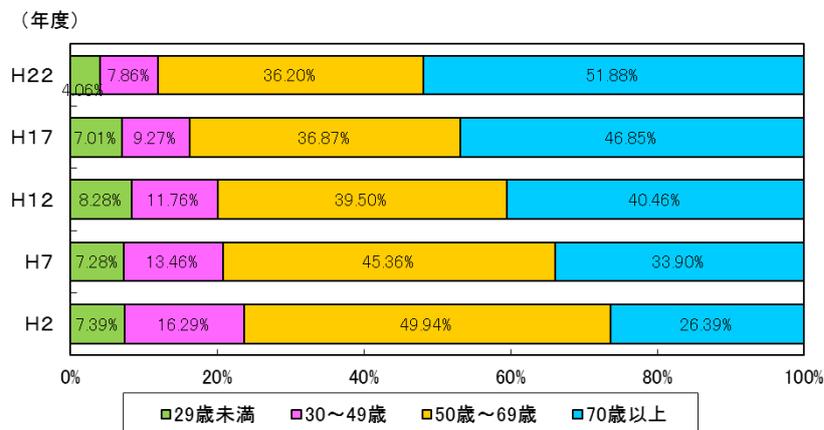
出典：農業センサス長野県統計書(農林水産省大臣官房統計部)

また、同期間における農業就業人口の年齢別構成比を比較すると特に70歳以上が旧大岡村・信州新町では37%から67%に増加しており、長野県においても26%から52%に増加している。

【旧大岡村・信州新町】



【長野県】



図Ⅱ-1-6 年齢別農業就業人口の推移

出典：農業センサス長野県統計書(農林水産省大臣官房統計部)

4) 経営耕地面積規模別農家数（販売農家数）

旧大岡村・信州新町における平成22年の販売農家数は452戸であり、平成2年の1,006戸と比較すると55%減少しており、長野県においても46%減少している。

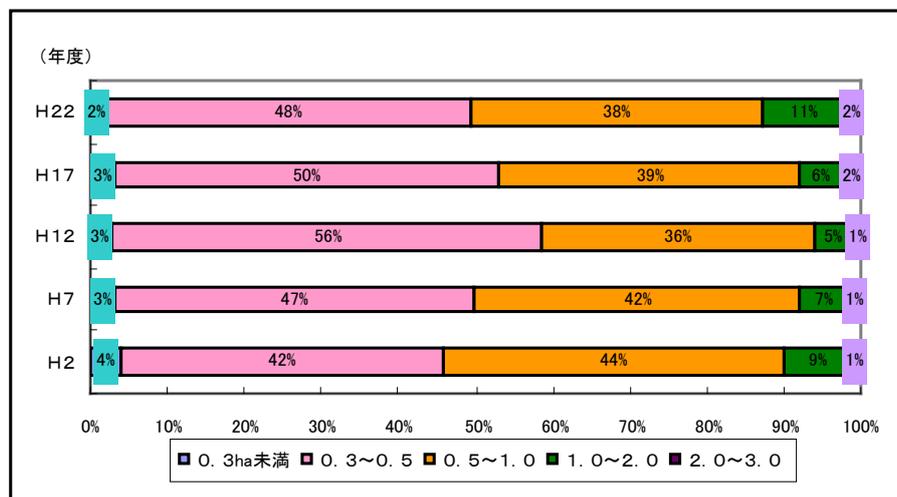
	H2	H7	H12	H17	H22
旧大岡村・信州新町	1,006	793	658	546	452
長野県	115,637	103,674	90,401	74,719	62,076

図Ⅱ-1-7 経営耕地面積規模別農家数（戸）

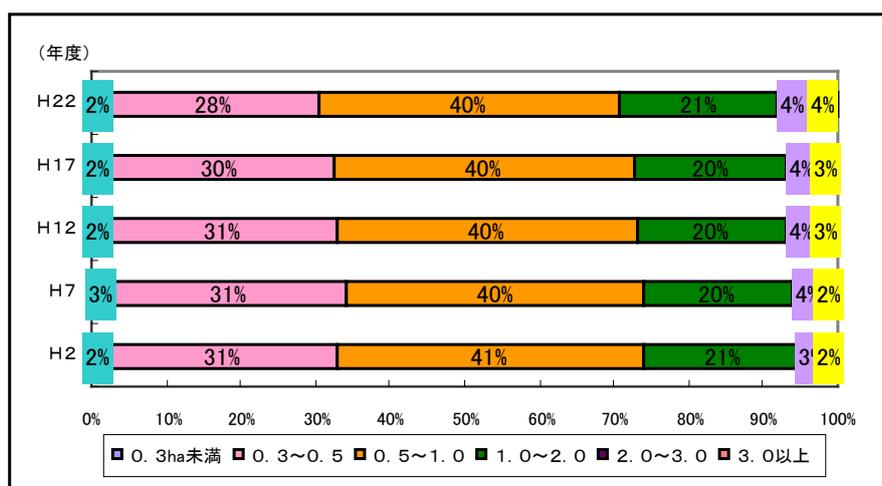
出典：農業センサス長野県統計書(農林水産省大臣官房統計部)

また、経営耕地面積規模別構成比を比較すると旧大岡村・信州新町では1.0ha以上の占める割合が10%から13%と僅かに増加しており、長野県においても26%から29%へ増加している。

【旧大岡村・信州新町】



【長野県】

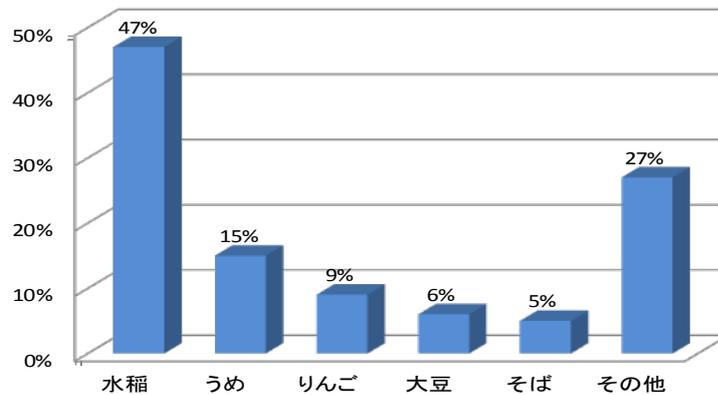


図Ⅱ-1-8 経営耕地規模別農家数の推移

出典：農業センサス長野県統計書(農林水産省大臣官房統計部)

5) 主要作物の作付動向

平成15年の旧大岡村・信州新町における主要作物の作付面積の合計は408haである。そのうち、水稲が193ha（47%）と最も多く、次いでうめ61ha（15%）、りんご35ha（9%）となっている。



図Ⅱ-1-9 旧大岡村・旧信州新町における主要作物の作付面積の割合（H15）

出典：長野農林水産統計年報（関東農政局長野農政事務所）

6) 認定農業者の動向

旧大岡村・信州新町の平成23年1月1日現在における認定農業者数は6名である。

認定農業者の内訳は、果樹3名、野菜1名、きのこ1名、酪農1名となっている。

表Ⅱ-1-10 認定農業者数の推移（申請年 累積内訳）（人）

町村名	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
旧大岡村	5	1	2	2	2	3	2
旧信州新町	4	4	5	7	7	4	4
計	9	5	7	9	9	7	6

出典：長野市調べ（平成23年現在）

7) 集落協定締結状況

中山間地域等直接支払交付金に係る集落協定は平成23年度現在旧大岡村が20集落、旧信州新町が10集落で締結し、うち本事業地区に関するものは旧大岡村が1集落、旧信州新町が4集落である。

協定の内容はいずれも協定内容に基づく農用地管理、水路及び農道の維持管理作業で一部の集落では景観作物の作付けを行っている。

8) 地域農業の特徴

本地域は棚田が多い地形となっているが、水稻が基幹作物となっている。畑作は小規模であるが、次のとおり特徴ある取組みを行っている。

① 西山大豆

西山大豆は善光寺の西部の「西山地域」と呼ばれる小川村、長野市中条・信州新町・七二会・小田切地区で古くから栽培されている大豆で、傾斜地で水はけが良い本地域が栽培に適していることもあって、その品質の良さから日本海側の地域へ運ばれて米や塩、海産物と交換されていた。しかしながら、生産量、消費量が年々減少傾向にあることから、地域のJAが中心となってブランド化に向け、ロゴ・マークの作成、イベント「西山大豆フェア」での情報発信等、生産者と加工業者が連携した取組を行っている。なお、本地域では大豆以外の豆類も含め「西山の豆」と称し生産振興に取り組んでいる。

また、長野市では、「地域奨励作物支援事業」で130円/kg（水田は70円/kg）の奨励金交付の支援を行っている。



西山の豆



西山大豆生産風景

出典：信州西山大豆パンフレット（西山大豆フェア実行委委員会事務局）

② トマト（加工用）

本地域での加工用トマトは、ジュースの原料として長野市内の農産物加工業者へ出荷されるなど、大豆とともに代表的な畑作物となっている。



原料となるトマトジュース

出典：長野興農株式会社ホームページ（長野興農株式会社）

③ 梅

旧信州新町には犀川ほとりに「ろうかく梅園」があり、春に「ろうかく梅園花祭り」が開催され、地域内外より観光客が訪れている。地域特産品として梅の栽培が行われ、町内産の梅を使った梅漬けのほか、ジュースなどの加工食品を開発している。



梅製品

出典：2011信州新町イヤープレット

(長野市信州新町支所)

④ その他

旧大岡村では従来より少量多品目生産が行われているが、自家消費の割合が高いことから、高齢化でも対応できる作物として、有志の農家で「にんにく栽培組合」を組織し、ブランド化を目指し、生産と共同出荷を行っており、本事業地区では池田区域で生産されている。

また、旧信州新町では、ジャーマンアイリスやサトイモ科のカラーといった花卉の栽培も行われるようになり、本事業地区では中原区域で生産されている。

いずれも、現在は小規模であるが、地域内の直売所に出荷され、今後の振興が期待される。



カラー

出典：2011信州新町イヤープレット

(長野市信州新町支所)